

# 唐木仏壇 安心のリフレッシュ 修理復元工程表

ご先祖さま、おじいちゃん、おばあちゃんから代々受け継いできたお仏壇を  
熟練の職人の技により、輝きを取り戻してみませんか？

この修理工程は、簡単な洗浄とは違い本格的にお仏壇を復元する形です。ご安心してお任せください！

\*一般的に安価で仕上げる“洗い”と“修復”の違いについて

洗い	言葉の違いはあるとは思いますが、ここでは洗いという言葉で表す形は、 ①をせず、②の工程のみに近い汚れを落とすだけの工程です。
修復	①～⑫までの工程をしっかり行うことにより唐木仏壇は本来の形を取り戻すようになります。



木材のつなぎ目  
が割れてきた…



柵がめくれてきた…

こんな部分的なお悩みも解決！

買い換えるより、やっぱり、小さいころからの愛着のあるふるさとの仏壇  
拜んでいきたい…

そんなご家庭にピッタリな復元方法がございます。

## こんな綺麗に復元できるんです！





では、一体お預かりしたお仏壇を一体どのように取り扱いさせていただきますかをご説明します。下記の内容にてそって行っていきます。

① お預かりの唐木仏壇の分解をしていきます。

\* 仏壇によって分解状態は違います。状態に合わせて分解の度合いを職人が見極めます。



A) 金具の取り外し 新調・洗い・メッキ直しをしていきます！

\* 新調の場合は、同等品を使用します

\* 洗い・メッキ直しは、金具が使える状態であることが前提です



古い金具を塗装し直すと、こんなに綺麗になります。

② 木製品専用の溶剤につけて洗い上げ、丁寧に吹き上げしていきます。

\* この行程で長年溜まったヤニ・ススを落としていきます。





### ③ 分解した各部位の補修、またはB) 新調部位の作成をしていきます。

\*ここは重要な工程です。

不具合や傷・凹みを調整と修復します。特に仏壇の正面は丁寧に見逃しなく修復します。

\*補修とは、傷や凹みを埋める作業です。

\*新調とは、修復不能の部位を新しく作成することです。

B) 新調とは、修復不能のものや欠損部位を補充することです。

\*欠損などもご安心ください。彫りや組子なども新調して復元します。

\*新調部位と昔のものは調整しますが、若干質感風合いが変わることがあります。

\*内部の桐の箱なども状態をみて、新調させていただく場合がございます。



### ④ 粗めのペーパーにて手作業で研磨します。

\*ペーパーにて研磨することにより補修した部位と元からの部位を平らにします。

\*この段階では、まだ荒い目のペーパーで研磨します。

\*古い塗料を落としていくという意味合いもございます。

C) ④～⑨の行程の途中で仮組しながら、

組み立て直しや木地の再調整も行います。





⑤ 木地の修復が完了したら、下地を形成してきます。  
(ウレタンサンディング塗料の吹付)

- \*④の工程で木地修復をすませ、下地を形成していきます。
- \*下地とは、肉厚のある塗料を吹き付けることです。
- \*下地を再形成することにより、④のペーパー痕を消し、さらに平らな木地になります。

⑥ そして再度細かいペーパーにて研磨していきます。  
全部、職人による手作業です。

- \*⑤で形成した下地の木地にさらにペーパーにて研磨します。
- \*この⑦や⑧の工程には、塗料をしっかり付着させ、さらにペーパー痕を消す意味があります。

⑦ ウレタン塗料（消し）の吹付をします。

- \*下記の工程⑧の色目調整の塗料の補助の意味合いがございます。





## ⑧ 色目調整します（色付け）

- \* 一番大事な工程になります。熟練した職人により、しっかり本来の色を付け直します。
- \* 塗垂れや木目が消えすぎないように注意します。
- \* 本来の色を見抜き、何種類もある塗料色を選択するなど重要な工程になります。

【大事なお話です。色目はお預かり時よりも絶対に濃く仕上げるようになります】

なぜかと言いますと…

上記の工程により依然の塗料で一番濃く残った色に全体を合わせていく作業になるからです。

ご注意 時間の経ったお仏壇は、ペーパーで研磨しても色がすべて落ちません。

なので濃い部分に色を合わせて行くようになるからです。

しっかり色を調整することにより、新品とまではいきませんが、色彩のバランスが蘇ります。



## ⑨ 仕上げ塗料の吹付をします。全体のツヤをあわせます。

- \* 仕上げ（消し）をします。⑧の工程と同等に重要な工程になります。
- \* 消しとはツヤ具合のことです。
- \* 艶々にするか風合いを保ちツヤ消しにするかを商品に合わせて仕上げていきます。

## ⑩ 「障子の紗」「内部や背中板の金紙」「A)の修理した金具」などの小さい部品の取り付けをします。

- \* 障子の紗はほとんどの場合、新調になります。
- \* 金紙もほとんどの場合、新調になります。

## ⑪ 「裏の板」「天井の板」などの大きい部位の取り付けをします。

- \* 裏板や天井板は、現状を確認し新調が必要であれば新調します。
- \* 貼り付けられている金紙などがあれば、必ず新調します。

## ⑫ 再度、職人とスタッフによる検品をして完成となります。

- \* 組み立て完成した仏壇を微調整をしながら検品します。



★ 部位事に見事に蘇ったお仏壇を見比べてみてください！



金具も新しくなり、下台の正面金紙も新調され、すっかり新品のような風合いになりました！ひどい具合になっていた傷だらけの正面も復元されています。







折れた組子、やぶれた紗などを補修と新調し、腰板の金紙も新調しています。障子などは特に綺麗になったのが、わかりやすい部位ですね。



棚は一番汚れや痛みがきやすい部位です。ここが皆さん気になりますよね。補修したり、新しく柶や板を貼り付けたりして綺麗に仕上げます。



桐箱は正面の唐木板部分はそのまま使用して桐部分を新しくすると非常に綺麗になります。





(その他の参考例)

ケヤキや黄王檀などの明るい色でも安心です。色目や修復もバッチリ！



唐木仏壇の復元ならお任せください！  
まずは工程のご説明から、お見積り(無料)  
お気軽にご相談ください。